

第27回豊田市平和を願う戦争展を終えて 二度と戦争をしてはならないの声、声、声

来場者は昨年を大幅に超え、2日間で延べ1500人と過去最多となった。戦争展は初めての男性が、「新聞を見てきた。安倍さんの様子を見ていると、孫が戦争に行くことになりそうで困る。」と話しておられた。このように、安倍政権の憲法第九条の解釈変更による、「集団的自衛権」の先行きを懸念する声が多く聞かれた。「いま語らなければ、もう最後だと思って来た」（93歳）と戦地で戦争体験をされた方が何人もいらっしやった。



来場者がとぎれなかった会場



展 示

4つの柱で展示をした。①豊田とトヨタの戦争 豊田は全国からの寄り合い所帯が多いため、

当地の歴史を知らない人も多い。そこで、自分たちの街豊田も、戦争と深く関わっていたことを重視している。今回は^{さなげ}猿投地区にスポットあて、4月に行った〈平和リレー講座〉で調べたことを「猿投と戦争」として展示した。これに対し、「地元の戦争体験の掘り起こしに敬意を表する」「地元の被害を知り、強い印象を受けた」「朝鮮人が連れて来られた農耕隊のことは知らなかった」等々の感想が述べられた。また、例年通り、トヨタが軍需工場であったために、終戦前日の昭和20年8月14日に模擬原爆「パンプキン」が投下されたことなど、トヨタと戦争との関わりも展示した。この事には、毎回多くの方が驚かれる。



農耕勤務隊 雨宮さんの著書、多くの方々の証言、現地調査から、判明した事実



②戦争の事実を見つめよう 南京大虐殺事件について、南京の記念館から直接借りた資料を展示した。それは、日本軍兵士が撮影した南京事件の写真だった。日本軍「慰安婦」問題では、東南アジアに広く展開する慰安所の地図など、自作の資料を展示した。

「日本兵が中国人をたくさん虐殺する写真を目にすることが無かったのでびっくりしました。今まで日本人は被害者とばかり思っていました、加害者でもあったんですね。」と初めての来場者から感想が寄せられた。



③「戦争をする国にさせないために」



憲法第9条や集団的自衛権の問題、武器輸出3原則の撤廃と東海の軍事産業の実態や沖縄と米軍基地の実態について、たくさんのパネルを展示した。「9条は宝だ」「安倍政権の暴



走をストップさせねば」「愛知にも軍需産業、驚いた！」など多数の声、声。このコーナーは、〈戦争と平和の資料館 ピース愛知〉の展示物や〈不戦ネットワーク〉作成のものなどを借りた。

④平和をつくる市民パワー 豊田市で平和のために行動しているいろいろな団体や草の根の活動がある。〈原水爆禁止豊田市協議会〉では原水爆禁止の署名運動や毎年8月に開かれる

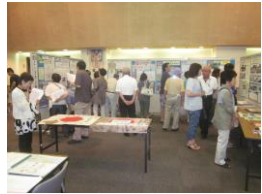


原水爆世界大会に代表を送るなど多彩な運動をしている。(今年の参加者の報告 4 ページ掲載) その他に〈豊田9条の会〉、〈さよなら原発豊田市民行動連絡会〉、〈新日本婦人の会豊田支部〉など8団体を紹介した。〈さよなら原発豊田市民行動連絡会〉は、「東京電力第一原子力発電所の爆発事故は、周辺地域を『被爆地』にしました。福島は第三の広島・長崎です。二度と再び日本中の各地が被爆地にならないように、私たちは戦争展に共鳴します。」と訴えた。



展示品と**資料**のコーナー

子どもコーナー



市民のみなさんの寄贈や貸出でなりたっている。数の多さが好評。



ゾウのぬり絵は大人気だった。他に折り紙や風船あそび、絵本と紙芝居の読み聞かせをした。

資料コーナーには、体験者が自らの戦争体験をつづった手記も展示されている。

催し 第一日目午前 **「戦争体験を聞く会」**

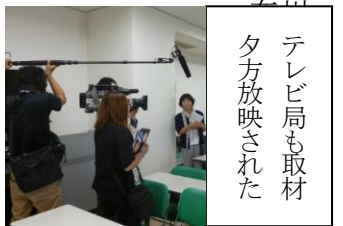


はじめに「私は見た朝鮮農耕隊の若者たち」と題して、今の猿投地区に動員されていた、朝鮮人農耕隊の若者たちの日々の苛酷な暮らしぶりを、当時小学生だった報告者の目から、記憶をよみがえらせながら話された。つづいて「権太からの引き揚げ体験」は終戦を知らされ、日本へ帰ることになったのに、幼かった少女にはその道中の、どんなにつらく苦しい恐怖の日々だったかをたんとと



傷跡を指して話された

語られたのは印象的だった。3人目は17歳で海軍特別幹部練習生として入隊し米軍と神県で応戦した元少年兵。その軍隊生活における「訓練」と称する日常生活が、いかに非人なものを体験を通して話された。どの証言者も、ご自身の体験から「二度と戦争をしてはならない」と強調された。さらに会場からは「私も同じ体験をしている」(87歳)「沖縄で300人いた部隊で2人だけ生き残った。私はその一人。実に悲惨な体験をした」(87歳)などの発言があった。



テレビ局も取材
夕方放映された

「この会だからこそこの何人もの体験を一度に聞いて、感動した。話された方々の思いを重く受け止め引き継がねばと思う」との感想が寄せられた。戦後69年、戦争の歴史が風化しようとしていると言われる。しかし、まだまだ「語りた・語らねばならないと思っている人」は多くいらっしや「聞きたい・受け継いでいきたい」と思っている人も多くいる。今こそこの取り組みは続けていかねばならない。

午後「見る・聞く・考える」

(大型紙芝居「忘れないで8月7日ー豊川海軍工廠の惨劇」 金沢ヒューマン文庫を愛し守る会・西三河ピース9合唱団の平和のうたごえ・講演「戦争する国にたくない」講師 池住義憲さん 立教大学特任教授)



紙芝居形式そのものがなつかしかった。・悲惨な出来事を深く心に刻むことができた。・忘れてはならないと思う

ピース9 (ナイン) 合唱団は憲法集会をきっかけに生まれ、その後も続けていることに感激。・知っている方もいてよけい感動した。・心にひびいた。もっと歌をききたかった。

講演は楽しく聞けて、すぐに終わった感じ。・戦争反対は分かっていたが、憲法を基本に考えればいいことに、励まされた。・“戦争は中央から平和は地方から” “地方自治からの力を生かして国を変える”が印象に残った。・「どうたたかうか」について力がわくアドバイスとして大変勉強になった。

両日 「絵本と紙芝居の読み聞かせ」

30日 「へいわってすてきだね」「少年の木」「死んだおんなのこ」「おこりじぞう」

31日 「おこりじぞう」「むらさきはなだいこん」

読んでくださったのは、〈麦わらぼうしの会〉〈ののはな〉のみなさん、県外からかけつけてくださった方など。読み聞かせのコーナーには絵本も多数展示。いっしょにページをめくる親子づれの姿も。



同時開催の映画会「ぞう列車がやってきた」

は、2回の上映とも子ども達と家族で満席だった。上映後、アンケートにたくさんの方が応えてくださった。あるお母さんは「子どもたちと一緒に見に来ました。私自身戦争を体験していないので、子どもたちと一緒にみて、戦争を親子で考えるよい機会になりました。」と書かされた。



映画の入場を待つ列

ご協力に感謝

毎回、いろいろな方法で戦争展に力添えをくださる。

今回、N.Yさんは、「平和の思いを伝えてよ、あなたから」の想いで、「戦争の悲惨さと愚かさを語りつないでいこう」「子どもたちの平和な未来のために今こそ戦争のことを知ろう」など、23種類のメッセージを短冊に一つ一つ手書きで書きこみ、折鶴に付けて来場者一人一人に渡してくだ



さった。Nさんは、千羽鶴が飾り物でしかないのを見て、もっと 想いが伝わるい方法はないものかと考えられ、一つの場所に一つの千羽鶴より、千羽の鶴に託して「千人の一人ひとりに想い伝える」ようにされたという。そして今回、戦争展のためにそれを560羽作られ、渡してくださったのだ。必ずや、平和の願いが一人ひとりの心に伝わったことだろう。Nさんの創意と実行力に学びたい。



K.Mさん寄贈の資料

K.Mさん (87歳) は、自分でまとめられた冊子9種類や地図を寄贈してくださった。お宅に伺った時に「二度と戦争を起こしてはいけない」と何度もおっしゃった。貴重な記録を受け継いでいきたい。

K.Kさんは、いっしょに戦争展を始めた方、今は県外にお住まいで、全国各地にある「紫金草合唱団」で活躍中。中国南京の方々とうたごえで交流の体験から、南京虐殺について自作の物を展示、ムラサキバナダイコンの種200袋を用意された。平和の願いを込めたこの種が豊田でも来春花開くことだろう。絵本「むらさきはなだいこん」も寄贈してくださった。いつまでも豊田の戦争展を思っていてくださること、ありがたい。

注：紫金草合唱団は、合唱朗読構成「紫金草物語」（作詞絵本「むらさきはなだいこん」の作者・大門孝子、作曲大西進）を歌う合唱団。この歌は、日中戦争のときに薬学者で陸軍材料廠の廠長だった山口仙太郎さんが、南京大虐殺の行われた紫金山の麓に咲いていた「紫の野の花」の種をひそかに持ち帰り、「紫金草」となづけて家族で日本中に蒔き広めたという事実に基づいてフィクションとして創作されたもの。この合唱団は「日本人として心から加害への謝罪の気持ちをこめて鎮魂と平和の歌を歌っていきたい」（紫金草物語歌集より）と述べている。2001年に南京で初演奏会。中国語でも歌われている。

そして、今回も新たに、戦争中や戦争に関わる品物を寄贈や貸してくださった方々、募金をくださった方々、多くの皆様のご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。来場者から「これが市民が主人公の戦争展ですね」とか「この戦争展はただ市民権を得ただけでなく、平和を願うすべての市民にとって拠りどころになったのでは」とのお話があった。「どうしたら平和になるかもっと具体的な方策を示して」とのご意見や、「来年は戦後70年、来年の戦争展に期待」との励ましをいただいた。草の根の市民の市民による市民のための戦争展、みなさんとごいっしょに28回はもっと充実させたものにしたいと思う。

(報告 豊田市平和を願う戦争展実行委員会 Y.T)

原水爆禁止2014年世界大会に行ってきました

全国からの参加者で新幹線は貸し切り！ 熱気に包まれて（一日目 開会総会）



8月4日から6日まで、広島で行われた原水爆禁止世界大会に、行って来ました。修学旅行でも行ったことがない初のヒロシマでした。支部からたくさんの代表カンパをいただき、ありがとうございました。全国からの参加者を乗せた新幹線は、臨時増発便。一路台風が近づきつつある広島へと向かいました。



新婦人豊田支部のタペストリー

「核兵器をなくしたい」という共通の願いで、こんなにもたくさんの人が世界中から集まっているのかと思うと、嬉しくなりました。

今年の大会は、国連を代表して軍縮問題担当上級代表（女性）が参加して演説をし、事務総長のメッセージを読み上げたり、オーストリアの軍縮大使が出席したり…。私たちが進めてきた核兵器廃絶の運動を、国連や多くの国が支持し期待している表れだと分かりました。国内外の草の根の運動が報告されました。「原爆の悲惨な被害を、自分たちのことに置き換えて考えることが大切」という、兵庫県「青年の会」からの発言が印象的でした。開会総会の参加者は、6,500人でした。

動く分科会「碑めぐり・被爆の実相学習会」（二日目）（午前・碑めぐり）

分科会にも魅力はありましたが、初参加の私にはこれだと思参加！このコースには、似島（このしま・多くの被爆した市民を収容した島）や広島城の地下壕・大本営跡を回る健脚コースもあったようで、ちょっと残念。それでも平和公園内だけでもたくさんの慰霊碑を見、ガイドの方の説明を聞きました。中でも印象に残ったのは2つ。1つ目は「原爆犠牲国民学校教師と子どもの碑」です。碑には「太き骨は先生ならむ そのそばに小さき頭の骨集まれり」と刻まれています。教師たちは、どんな思いで教え子を抱いたまま息絶えたのだろうかと思うと、悲しくて悔しくて…。



教師と子どもの碑



原爆の子の像

2つ目は「原爆の子の像」です。（佐々木禎子さんの像）預かっていった千羽鶴は、この像に捧げられました。たくさん集まった千羽鶴は一定期間経つと取り替えられ、古くなった物は紙粘土やメモ帳に再生されます。それらが平和記念資料館の売店に置いてありました。

（午後・被爆体験を聞いた後、平和記念資料館へ）

体験を話された畑田さんは、国民学校2年生の時に被爆しました。心臓に病気を抱えた体で「7才にして地獄を見ました。悲しみを乗り越えて忘れてはいけない、忘れられない。一瞬にして、大事なものを何万という命を奪った核の恐ろしさを伝えていかねばという一身で、こうして立っております。」と話されました。戦争を体験した方々は、確実に少なくなっています。「体験を代わりに語れるようになろう」という取り組みが進んでいると聞きました。私のような戦後生まれでも、父母が悲惨な戦争体験を持つ者が、もう「平和の語り部」になる時期がきていると実感させられました。



針は8時15分を指したまま

平和記念資料館は、身動きが取れないほどの人で、海外から訪れた人も目立ちました。焦土と化した広島町の大きなパネル写真をバックに、男女が記念写真を撮っていました。世界遺産の観光地として来ているのでしょうか。それにしても、訪れている大半の人が平和を願い、核をなくしたいと願っているだろうに、なぜ紛争が、核兵器がなくならないのか…。

実際にたくさんのヒロシマの声（碑と遺品、資料）を前に子や孫の生活に置き換えて考えてみたら、「戦争は、核はだめですよ！」という当たり前の声を一致点にして、身の周りから運動を広げていくことが大切だと痛感しました。

夜…「核兵器なくそう女性のつどい2014 in ヒロシマ」 今年は3人の海外代表を招待し、夜の女性のつどいにも大勢の女性が集まりました。広島市内の小学校教師は「直接体験していなくても被爆者の気持ちに寄り添えば伝えられる。ここ三篠町だから伝えられることを、劇にして発表しよう」という取り組みを紹介しました。子どもたちにとって遠いできごとであり、どこか他人事になるヒロシマであったことを、どう子どもたちに投げかけていけばいいのか、苦闘した様子が伝わりました。（開会総会報告 省略）

報告 新婦人豊田支部